

2) 水替区分

水替は低水位以下の土工及び前庭工の土工を算出し、水替対象数量とする。

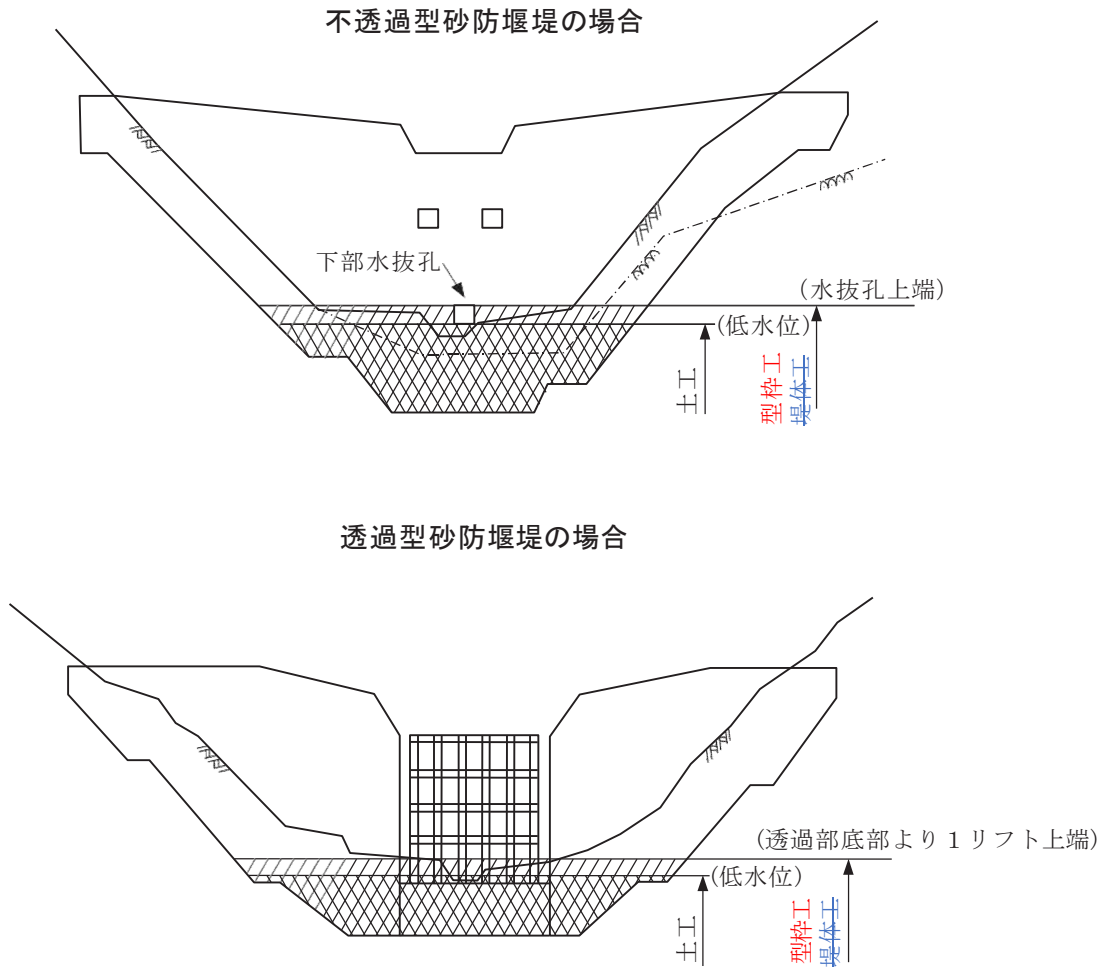
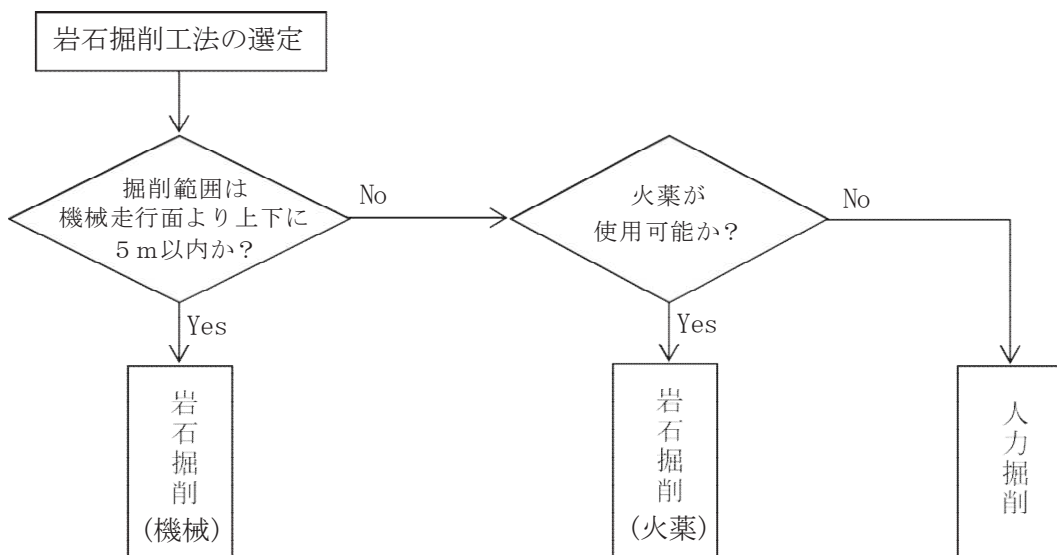


図-3 水替対象範囲

3) 岩石掘削工法の選定

岩石掘削工法の選定は、下図に基づき区分して算出する。



4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。
本堰堤及び垂直壁については、オベリスクにより算出するものとする。

なお、コンクリート、型枠の数量は、必要に応じて「第1編（共通編）4章コンクリート工」により算出する。

(1) コンクリート

堤体コンクリートについては、一般部と堤冠部、~~水替対象と対象外~~を区分し、全体の数量を算出するとともに年度区分の数量が容易に算出出来るようにブロックごと（施工高は1m又は基礎の変化点、延長は止水板位置等を標準とする）にも算出する。（全コンクリート数量とは、敷モルタル量を含む）

(2) 型枠

1) 型枠面積の算出のうち、~~については~~、水替対象と対象外を区分し、全体の数量を算出すること。外部型枠の対象面は各構造物の引き取り対象となる面とする。ただし、側壁、護岸の裏面及び本体と間詰を同時に施工する場合の間詰の接する面等を除く。また、内部型枠の対象面は、側壁、護岸の裏面、間仕切り面（日々の打ち止め面）等とする。

2) 型枠工の水替対象とする範囲は以下のとおりとする。（5.1.3.(4)2)水替区分の図参照）

不透過及び部分透過型堰堤：下部水抜孔上端以下の範囲

透過型堰堤：透過部底部より1リフト上端以下の範囲

(3) 足場（キャットウォーク）の適用範囲

1) 足場（キャットウォーク）の適用範囲は、型枠の組立、解体用足場を設置する場合とし、基礎地盤より2m上から対象とする。ただし、間詰を施工（本体と同時施工）する場合は、間詰天端より2m上から対象とする。

2) 継続工事で間詰、埋戻、水叩等が完成している場合は、その天端より2m上からを対象とする。

(4) 足場（キャットウォーク）延長

足場延長の算出方法は、足場の高さ方向の標準設置間隔を1.8mとして段数を決定し算出する。

[足場延長算定式]

$$L a = \frac{A a}{1.8}$$

L a : 足場延長 (m)

A a : 足場対象面積 (m²)

足場対象面積は垂直投影面積とし、足場の不要となる基礎地盤より2.0m分は控除するものとする。

1.8 : 足場の上下据付（垂直）間隔 (m)

(注) 足場の不要となる基礎地盤とは、平坦（i = 1/10以内）が5.0m以上の箇所（砂防堰堤等上・下流基礎、半川施工部基礎、同時打間詰天端等）、打設ブロック間の下段コンクリート面をいう。

(5) 止水板の数量算出

止水板の設計長は基礎面から天端までとする。

注) 垂直打継目(止水板設置部分)には、エラストイト等目地材を設置しない。

(6) 水抜暗渠の数量算出

数量は、延長(m)を算出する。ヒューム管の場合の延長は外周下端延長(m)を算出する。

暗渠部のコンクリート控除数量は、ヒューム管の外周面積に中心延長を乗じたものとする。

なお、水抜形状が四角形の場合は、別途考慮すること。

注) 1. コンクリート控除数量は、「第1編(共通編)1章基本事項」による。

~~(7) 水替区分~~

~~上記項目については、下部水抜孔上端以下の堤体工(不透過型砂防堰堤)透過部底部より、
1) リフト上端以下の堤体工(透過型砂防堰堤)については、水替対象として算出する。~~

~~—(5.1.3.(4)—2) 水替区分の図参照—~~